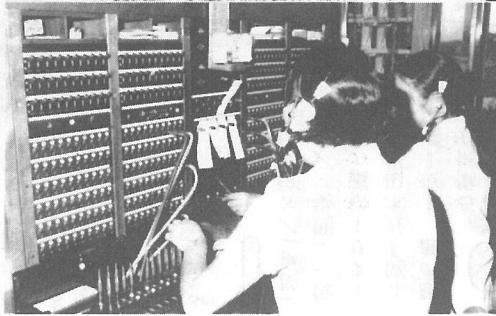


電話のない時代、貴重な通信手段となった有線放送

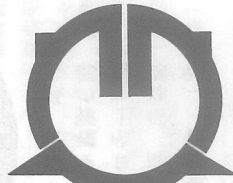


昭和32年農協合併、34年新庁舎完成・中学校統合・有線放送電話開始と、着々と一本の町づくりをめざす横芝町は、昭和35年1月、その努力が認められ、全国町村会から「優良町村」として表彰を受けました。

そして、その4月「合併5周年」の祝賀式を挙行了した時、初めて公式の場で町章が正面に掲げられました。

# 有線通話放送始まる

閉鎖し、長野県方面に移っていきました。現在、受信所跡は町民運動広場になっています。



横芝町章

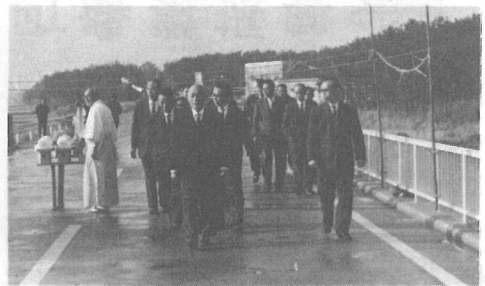
作者：神馬寿章  
昭和34年3月16日制定

げられました。この町章は、昭和34年、新横芝町に適した図案」ということで、町民から公募した作品の中から選んだもので、当選者は当時横芝幹部派出所にいた、神馬という名の姿勢の良い、交通手信号の上手な若い警察官であったと記憶しています。

## 国民年金もスタート

昭和34年に、暫定措置の意味で発足した国民福祉年金は、「国民皆保険」の主旨に従って、昭和36年にいよいよ拠出制の「国民年金制度」としてスタートしました。

当時は、保険料の納付方式である「印紙を貼って、それに消印をする」という作業がなかなか



バイパス開通、新栗山橋の渡り初め

か徹底せず、収入役室から買った印紙を、自分の年金手帳に貼ったまま自宅に持ち帰り、係が未納分の催促をする、「ちゃん」と印紙を貼ってあるのに、催促とは何ごとだ」と文句をつけに来る人があったり、「もう年金は少しでもいいから、福祉年金の方にしてくれ」と窓口を動かさない人がいたり、担当職員の苦労は大変なものでした。

そのころ、町村合併直後から企業調査を続けていた、東洋高庄の関連企業である東洋コンチネンタルカーボン有限会社の横芝工場が完成しました。

その落成式に出席した東洋高庄の社長のために、「自動車のドアの下から会場の所定席まで、赤じゅうたんを敷きつめて案内した。天皇陛下並みだ」という

噂が飛び交いました。その真偽のほどは定かではありませんが、大企業進出と、権威ある財力者に対する町民の期待は大変なものでした。「工場が操業を開始すると、数百人、いや千人くらい、の工員を採用するようだ」とそんな噂も流れたのです。

## 広報横芝を創刊

この年の11月、広報第1号が発行されました。それまでは公民館報・町報などの名称で年2回、贈写印刷の回覧板で町の行事や案内をお知らせしていましたが、この月から1か月間隔で、印刷も活字に改めて各戸に配られるようになりました。

創刊号の1ページで、時の伊藤藤績夫町長は「今まで有線放送や回覧などでお知らせしていましたが、広報横芝により、更に町の広報の徹底を期したいと思います。この広報が、今後の町政運営に役立ち、皆様に親しまれて育つよう御支援ください」と



広報横芝創刊号

ラマ「おはなはん」大評判

### 42年

- 2 郡市計算センター協議会設立
- 2 新栗山橋完成、国道126号線バイパス開通
- 2 初の建国記念日、東京に初の革新都知事、グループサウンズ全盛

### 43年

- 2 町長に椎名登氏当選
- 4 郡市衛生組合設立
- 9 横芝電報電話局開局
- 9 昭和元祿、イサナギ景気、三億円強奪事件、参院選でタレント候補全員当選

### 44年

- 4 町交通指導員制度発足
- 5 横芝敬愛高校舎完成
- 7 横芝駅に急行停車
- 11 県青少年のつどい、当町で開催
- 11 東名高速開通、米の人工衛星アポロ11号月面着陸

とあいさつされていました。

広報のPR効果もあってか、地域意識を脱皮した婦人会や青年団体は、公民館や農協などの指導により、学習活動を始めた。昭和38年に実施した「自動耕運機免許集団講習会」への参加もその一つでした。

(つづく)